

学校評価書

大津市立雄琴小学校

平成23年2月

大項目	小項目		自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて	
	評価内容		小項目評定	大項目評定	現況	大項目評定		意見・提言等
1 学校教育活動の推進	基礎基本	基礎・基本の徹底と自己教育力の育成(読む・聞く・考える授業の創造)をはかる。	B	B	・普通の授業の質の向上や特設の時間を設けて努力中。 ・外部講師を招聘した授業研修・校内研修で教師力の向上に努めた。	B	算数など、つまづきやすい教科に対して対応できている。	児童の実態を分析する中で、指導方法の改善を加えながら児童の学力向上に改善を加える。 雄琴の人・自然・文化を生かした体験学習となるよう努力に努める。 また、授業参観や発表会での保護者の参観マナーの呼びかけを工夫したい。
	少人数	少人数指導をはじめ、きめ細かな指導の充実及び授業改善を工夫する。	B					
	体験	五感を通し、雄琴の人・自然・文化を生かした体験学習の推進する。	B	B	・従来からの実践を引き継ぎ努力を重ねてはいる。次年度教育計画の改善の努めることができた。教師の授業構成力の向上・外部講師の発掘が必要である。	B	について、学校の意図を伝えるべき。適切でない態度には、注意も必要。	
	体験活動 3-7	各種体験活動の積極的な実施	B					
	体験活動 3-8	活動後の発表会等学習のまとめ	B					
	体験活動 3-9	発表会等への保護者等の参加	B					
	読書活動 7-19	週1回以上の全校一斉読書	A					
	読書活動 7-20	読書環境の整備や地域人材等の活用	A	A	・図書ボランティアグループの支援のおかげで充実した。	A	もう少し、図書館の利用者が増えるとうい。 いろいろな発表会が増え、子どもが目標に向かって取り組んでいる。	
	読書活動 7-21	音読・群読・暗唱等発表の場の設定	A					
	交流	異年齢・異世代との交流活動の推進により、縦集団の育成に努める。	B	B	・適切なたわり活動であると考える。 ・6年のキャリア教育は充実した。 ・「生きる力」充実のためのカリキュラム検討が必要である。	B	は、がんばって取り組んでいる。 は情報がない。 「日吉サミット」などの機会がもつとるとよい。	
	生きる力	夢と志を持ち、豊かに生き抜く力の基礎・基本を身につける。	B					
	幼小・小中	子どもの校種間交流や教員の出前授業	B					
	2 充か？ られる 自己 生徒 指導 が のは	問題行動	危機意識を持ち、問題行動の防止と早期発見・誠意ある初期対応に心がける。	A	B	・生徒指導・教育相談・関係機関等との連携は、うまく機能している。	B	
教育相談		心のふれあいを深める教育相談を充実する。	A					
集団づくり		豊かな人間関係や自己存在感が得られる学級集団づくりに努める。	B					
進路指導		個性を重視し、夢や生き方を培う進路指導に努める。	B					
3 人権意識の高揚と人権教育の推進	道徳・人権	道徳教育、人権教育、特別支援教育等により、命を大切にし、人を思いやる心を育成する。	B	B	・道徳教育については、教材資料を分類整理し、使いやすくする必要がある。 ・本年度、道徳の授業公開は実現できた。 ・道徳的実践力を育てる活動の場の視点を再度教職員で共有して実践にあたる必要がある。	B	学力も大切だが、同様に心を育てることも大切。 保護者にも一緒に考えてもらう工夫もあるとうい。	
	道徳教育 2-4	生命を尊重する心や公共心、公德心などの道徳的実践力を育てる活動の実施	B					
	道徳教育 2-5	道徳の授業研究や資料の整備・交流	B					
	道徳教育 2-6	保護者等への道徳の授業公開	B					
	幼小・小中 連携 4-11	校種間の合同研修会	B	B	・幼小は形ができた。小中について、学推の活動との継承発展の中で充実する必要がある。	B	できる範囲で、少しずつ進めてほしい。	
	幼小・小中 連携 4-12	校種間の授業公開	B					
	関係機関との連携	課題を持つ児童への学力補充と子育て支援、関係機関との連携により、特別支援教育の充実に努める。	A	A	・課題を前向きに捉え、常に連携を視野に入れて実践が進められた。	A	ありがとうございます。	
	特別支援	社会参加や自立を目指す特別支援教育を目指す。	A	B	・個々の課題について、前向きに実践を推進中である。	B	個別に支援はできていると思う。	
	特別支援 5-13	個別指導計画の作成	B					
	特別支援 5-14	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	B					
特別支援 5-15	巡回訪問等を活用した校内外研修	A						

ある4 りた かめ の活 性 組 織 化 を の 図	組織	教職員一人一人を生かす、活力ある組織と組織活動を推進する。	B	B	・職員は、自分の職務を自覚し、前向きに努力している。 ・教師が子どもにかかわる時間の確保という観点から校務全般のスリム化を更に進める必要がある。	B	前向きに検討していると思う。	ITの活用、組織のスリム化、行事の精選、外部協力の可能性をさぐる中で前進させていきたい。	
	組織	学校・学年・学級の有機的関連と一体化に努める。	A						
	スリム化	慣例や習慣にとらわれない、学校の組織化や活動・業務のスリム化に努める。	B						
高5 める 教 師 の 専 門 性 を	職員研修	教育課題の認識とその解決に向けて、教師の専門性を高める研修の充実をはかる。	B	B	・校内研修も計画的に実施できた。 また、外部講師を積極的に招聘し、意欲的に推進できた。	B	今後も活発に取り組んでほしい。	活力ある職場づくりに努め、OJT(職場内研修)はもちろん専門の外部講師の指導を受けながら、教師力向上をはかる。	
	研究体制	「授業が子どもを変える」という認識に立ち、授業改善をはかる研究体制を構築する。	A						
	外部人材	職員どうしお互いに高めあうとともに、外部人材を招聘して教師としての力量を高める。	B						
6 保 健 ・ 安 全 ・ 環 境 教 育 、 そ の 他	健康・安全	人間の尊厳に立脚し、命の大切さを認識した健康安全教育に努める。	A	B	・保健安全は成果が上がっている。 ・環境学習は- ~ と同様。	B	今後も活発に取り組んでほしい。	更なる継承発展を目指す。	
	環境	地域教材を生かした自然保護意識や環境学習の推進に努める。	B						
	PTA	PTA活動等を通して、保護者との信頼関係を深める。	B	B	・保護者と連携した教育活動を念頭に置いて推進しているが、「保護者同士の交流」「子育て学習会」など子育て支援の効果的な工夫を更に改善する必要がある。	B	学級懇談会に工夫をお願いしたい。	参観・懇談・家庭訪問等、学校と保護者や保護者どうしの交流と学習の場に工夫を加える。	
	子育て支援 6-16	保護者の子育てに対する積極的な支援	B						
	子育て支援 6-17	保護者の悩みを聞く個別相談の実施	B						
	子育て支援 6-18	保護者同士の交流や学習の場を意図した参観、懇談会の実施	B						
	情報発信	学校公開・授業公開・広報誌「しらべが丘の風」等により学校や児童の様子を知らせ、地域・各種団体との連携に努め、信頼される地域の学校づくりに努める。	B	B	B	・HP更新は、頻繁にはできないが、重要度を見極めて改善したい。	B	HPの更新より、「調べが丘」の充実がうれしい。	前向きに情報伝達に取り組みたい。
	学校評価	学校協力者会議を充実させ、学校・保護者・地域の客観的な評価を通して学校力を高める。	B						
	学校評価 1-1	自己評価結果の公表	B	B	・「学校評価」の取り組みを実践しながら改善を加えていき、実効ある評価にしていきたい。	B	B	いろいろな意見が生かされるように期待します。	「学校評価」の過程を通して、保護者や地域に学校を知ってもらい、雄琴小学校の更なる発展の契機としたい。
	学校評価 1-2	学校関係者評価の実施	B						
学校評価 1-3	学校関係者評価結果の公表	B							
学校満足度 県共通22	幼児・児童生徒の学校満足度	B	B	概ね達成と考える。	B	概ね達成と考える。	概ね達成と考える。		

達成度	座 標
A	目標を上回る達成
B	目標を達成または概ね達成
C	目標を達成せず
D	目標を大きく達成せず

先日、2月25日(金)に学校協力者会議を行いました。保護者の皆様からご回答いただきましたアンケートや子どもたちからの回答をもとに学校運営の状況や今後の運営について提言・意見・感想をいただきました。その集約を評価書にまとめました。今後の学校運営に役立てていきたいと考えています。